

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	サポートプロバインド・ミライエ		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50人	(回答者数) 35人
○従業者評価実施期間	2026年2月17日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月25日		～ 2026年3月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	学校・保育園33施設	(回答数) 23施設
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的で分かりやすい助言と、児童の特性に応じた具体的な支援提案	専門的な知見を基にしながらも、現場で実践しやすいよう具体的に分かりやすい助言を心がけています。児童一人ひとりの特性を踏まえ、行動の背景を丁寧に捉えた上で、環境調整や関わり方について具体的な支援方法を提案しています。	支援の根拠や意図をより明確に伝えるとともに、実践後の振り返りを通して助言の有効性を検証し、より有効性の高い支援につなげていきます。
2	保護者対応の支援や関係機関との橋渡し役としての関わり、職員の不安軽減や児童理解の促進	保護者への丁寧な説明や相談対応を行い、安心して子育てができるよう支援しています。また、関係機関との連携を図り、必要な情報共有や調整を行うことで橋渡し役としての役割を担っています。職員に対しても具体的な助言を行い、不安軽減と児童理解の促進に努めています。	保護者・関係機関・職員間での情報共有の質と頻度を高め、共通理解のもとで一貫した支援が行えるよう連携体制の強化を図っていきます。
3	ケース会議や研修等を通じて、情報共有にとどまらず今後の方策まで共に考える機会を持っていること	ケース会議や研修の場を活用し、単なる情報共有にとどまらず、児童の課題や支援の方向性について多職種で意見交換を行っています。具体的な支援方策を共に検討する機会を意識的に設けています。	会議内容をより実践につなげるため、役割分担や支援計画の明確化を図るとともに、継続的なフォローアップを行い、支援の定着と改善につなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校・家庭・関係機関間での連携にばらつきが見られる点	関係者間での情報共有を意識し、連絡手段やタイミングを工夫することで、できる限り連携のズレが生じないように努めています。必要に応じて調整役となり、共通理解の形成を図っています。	連携のばらつきを解消するため、定期的な情報共有の場の設定や記録様式の統一など、継続的かつ安定した連携体制の構築を進めていきます。
2	支援の意図や効果が見えにくい場面	支援のねらいや目的を事前に共有するとともに、小さな変化にも着目し、関係者に伝えることで効果の可視化に努めています。	支援前後の変化を記録・整理し、より分かりやすく示すことで、支援の意図や効果が共有できるよう工夫していきます。
3	集団場面において実践が難しい場合	集団の流れを踏まえつつ、個別の配慮が必要な場面では環境調整や声かけの工夫を行い、無理のない形で支援を取り入れています。	個別支援と集団支援のバランスを見直し、現場で実践しやすい具体的な方法の検討や事例共有を通して、より柔軟で効果的な支援の実現を目指していきます。